

『妙劔神社の劔』

現在は、「妙劔白石神社」と申しますが、まだ、「妙劔神社」「白石神社」と別々だった頃のお話でございます。

昔、大国主命が本宮さんにいらっしゃった頃、時々、八田へお通いになりました。その宮山（現在、「宮



のくぼ」と呼ばれている)に、お妃さまがいらっしゃったからです。大国主命は、宮山へ通っている間に、千野の「妙劔神社」の御神体が、不思議な威力を持つ劔であることを知りました。

それで、邑知瀧の大蛇を退治に出かける時、その神社へ立ち寄って、その劔をお借りしました。「妙劔神社」の劔の切れ味は、見事なものでした。ひと突きで大蛇の心臓を貫くことが出来たといわれています。

「白石神社」の御神体は、その名の通り「大きな白い石」です。この「大きな白い石」と国下の「物貸し石」が、地下でず一つとつながっていると、その昔から、誰ともなく言われていた。「それじゃ、確かめてみよう。」と、村人が掘ってみたところ、あっけなく「ゴロン」と倒れて、大笑いをしたといえます。その時に倒れたため、「白石」は横になっているのだと伝えられております。

(千野町伝承 守沢 政治、山下郁雄 集録)